



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

悲しみの先に開かれる世界

やなせなな



〔略歴〕
一九七五年奈良県高取町生まれ。
龍谷大学文学部真宗学科卒業。
浄土真宗本願寺派教恩寺住職。
シンガーソングライター。

二〇一九年五月十日
「飛騨御坊御遠忌讃仰第三十七回真宗公開講座」にご縁をいただき、歌とお話をお届けしました。
私は奈良県にある本願寺派の教恩寺で住職を務める傍ら、シンガーソングライターとして活動をしており、やなせなな(本名・梁瀬奈々)と申します。

今回私のテーマは「悲しみの先に開かれる世界」。お取り次ぎに当たり、親鸞聖人の浄土和讃からこちらを拠り所とさせていただきました。

南無阿彌陀仏を
となうれば
十方無量の諸仏は
百重千重圍繞して
よろこびまもり
たまうなり

このたびの御遠忌は、本堂等御修復落成慶讃法要と併せて三日間に渡り法要が営まれましたが、初日となった法話ライブ当日、準備のために別院へうかがうと、満堂のお参りのご門徒さんで境内は大変賑わっていました。活気ある空気に触れると、皆さまがこの日をどれほど楽しみにしておられたかが伝わってきます。

本願寺派で広く普及している『仏事勤行聖典』の中に収められたこのご和讃は、『仏説阿彌陀經』をお勤めした後に、親しみやすい節を付けて、みんなと一緒に唱えやすいよう定められています。歌のように口にしていた

私が見て暮らしているお寺は、江戸時代末期に開かれた小さな念仏道場が始まりです。代々、別の仕事を持って生計を立てながら、み教えを受け継いでいくというスタイルでお寺を守ってきました。私の両親もまた共働きたったため、日頃は祖母が日常の法務に携わり、私たちが孫の面倒を見ていてくれました。ですから、おばあちゃんというよりも、もう一人の母のような存在だったと言えます。祖母は太平洋戦争で夫

を亡くしていました。その影響もあつたのか、日々のお念仏を欠かすことがなく、「おじいちゃんはお浄土からいつも見守ってくれたはるよ」と、時には目に涙を浮かべながら、繰り返して語ってくれたものでした。その言葉が私とみ教えの最初の出会いでしたが、正直なところ意味はよくわかりませんでした。二度と会えない人なのに、いつでもそばにいたのか。母の死を語る祖母は、まさにその苦悩を破る阿彌陀さまの救いを伝えようとしてくれていたが、幼い私には他人事のように遠く聞こえて

いきました。
しみじみと思い返したのは、祖母が亡くなった後でした。祖母は百歳を超えるまで元気にお寺で家族と共に過ごしていましたが、ある時突然、脳梗塞に倒れ、回復することのないまま命を終えたのです。葬儀の際には、幼い頃、祖母にしてみらしたことをたくさん思い出しました。「ありがとう」と何度口にしてもし足りず、恩返しができなかったことをどれほど悔やんでも、「ごめんね」と伝える術もない現実に、涙が溢れて止まりません。ただ手を合わせお念仏を申すより他にありませんでした。

なんまんだぶつ
なんまんだぶつ
繰り返す私の周囲でも、同じようにお念仏の声が聞こえました。きつと悲しみの数だけお念仏が生まれることでしょう。その時、先の親鸞聖人のご和讃を思い出したので。
救われない闇の中の私を超えて、至り届く救いの光がここにあることを、最愛の祖母の死が示してくれました。このぬくもりを音楽と共に、私の命ある限り分かち合っけてゆきたいと願っています。

「本家のお墓」と「分家のお墓」、そこに入れる入れない、そういうことの良し悪しに思いを巡らせるのは、「お骨」、つまり「亡き人」が「我が家のお墓に眠っている」という認識があるからこそではないかと思えます。墓石に「〇〇家之墓」と刻まれているのを拝見しますと、そこに「我が家」と同様の強い思い入れを感じます。であれば、他所の人となつてしまった分家の方が、本家のお墓に入るのに強い抵抗を覚えたりするのは、ある意味当然の感覚なのかもしれません。

しかし、浄土真宗のお墓では、〇〇家之墓とは刻まず、「南無阿彌陀仏」または「俱会一処」と刻むようになってい

ています。それは、お墓を「ご先祖が眠る場所」ではなく、「ご先祖をご縁として、仏さまと向き合わせていただく場」としていただいているからです。真宗では、人はこの世のいのちを終えたとき、仏さまに成らせていただき、後に続く人々、つまり今生きている私たちを眠らず休まず導きはたらき続けてくださるのだと教えられます。そこには「我が家」と「他所の家」の区別などありません。そして、仏さまがおわしますところは阿彌陀さまの国、極楽浄土です。限定されたお墓の中ではないのです。

ですから、分家の方のお骨が本家のお墓に納まることについて、仏教としては何の問題もありません。むしろ生きていた私たちが問題となるでしょう。お墓が心悩ます静い種になつてしまわないよう、お家やご親戚の方々とよくご相談のうえ、お骨を納めるお墓をお決めになるのがよいのではないのでしょうか。

宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

児童夏のつどい in 了因寺
7月21日(日)~22日(月)開催!
川遊びなどいろんなイベントが盛りだくさん。飛騨地域のともだちとたのしい夏をすごしてみませんか?
会場 了因寺(高山市清見町藤瀬)
参加費 3,500円(食費・保険等含む)
対象 小学校3~6年生
締切 7月1日(月)
※お手次のお寺もしくは高山教務所にお申し込みください。
※定員になり次第、締め切らせていただきます。

子ども奉仕団 参加者募集
7月29日(月)~31日(水)
京都の東本願寺に全国から子どもたちが大集合!みんなでおつとめしたり、おそうじをしたり、お話を聞いたり、遊んだりしながら一緒に生活します。
会場 東本願寺(京都市)
参加費 12,000円(食費・保険等含む)
対象 小学校4~6年生
締切 7月1日(月)
※お手次のお寺もしくは高山教務所にお申し込みください。
※定員になり次第、締め切らせていただきます。

おしなで
くわんざ
問 分家の者のお骨でも本家の墓に入れてええもんなんかな?
答 「本家のお墓」と「分家のお墓」、そこに入れる入れない、そういうことの良し悪しに思いを巡らせるのは、「お骨」、つまり「亡き人」が「我が家のお墓に眠っている」という認識があるからこそではないかと思えます。墓石に「〇〇家之墓」と刻まれているのを拝見しますと、そこに「我が家」と同様の強い思い入れを感じます。であれば、他所の人となつてしまった分家の方が、本家のお墓に入るのに強い抵抗を覚えたりするのは、ある意味当然の感覚なのかもしれません。

宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

家族で語ろう

仏教×グリーフケア③

尾角 光美

わざわざ、グリーフケア？

最近、こんなお声をいただくことがあります。「日本の仏教やお寺はもともと死別を支えてきたじゃないか。わざわざなんて僧侶が『グリーフケア』を学ぶ必要があるのか？」。私もそう思っていました。日本仏教の中には、すでにグリーフケアの要素がたくさんあります。「死者」を亡き存在とせず、死者を仏として、私たちが再びつながっていく存在として見ていくまなざしがあります。この世に生きている私たちが、極楽の世界に想いを馳せるのは、そこに死者の存在を感じられるからこそではないでしょうか。「あなたが先いって、私ちよつと遅れていくからね」といったことを、伴侶を亡くされた女性が口にしていました。そうした再会を期することもまた、日本仏教が養ってきた感性ではないでしょうか。

ではその感性は今、どの程度共有され、活かしているのでしょうか。現代では「再会」どころか、亡き人の存在を感じることもできない、断絶を強く感じている方もおられます。理不尽にも災害や事故などの突然の死別を経験されたた皆さんの人たちが、苦しみの中を生きています。それはいわゆる「大往生」で身内を看取られたご遺族の方も同様なのです。その方

は私の講演を聞いた後、「ずっと身体がしんどかった理由が、今日やっと理解できました」という言葉をお聞かせくださいました。また、介護しながら見送った方が「十数年の間、あの人を亡くした時にほっとした自分を責めていました。グリーフに安堵、安心があると聞いて、やっと自分を許すことができました」と話してくださいました。

日本仏教で事足りているのであれば、こうしたご遺族の苦しみはないはず。でも多くのご遺族や、大事な方を亡くされた人たちが「自分だけがおかしくなったのではないか」、「こんな感じ方、まちがっているのではないか」と不安に思われたりしています。その人たちにとって、まずはグリーフについて、死別や喪失の反応について、基礎的な情報を知ることが助けになることがあります。「グリーフケア」自体は、欧米から入ってきた概念であり、実証的な研究が積み重ねられてきた科学的なものでもあります。今の時代に死別を経験する私たちが必要とするのは、宗教や信仰だけでしょうか。これまでに、死別を経験してきた人たちが、どのような影響を受け、どんなサポートがあると良いのかをしっかりと研究されていることはとても心強いことだと考えています。

「日本型グリーフケア」を築く

でも私は欧米の「グリーフケア」を受け売りすれば良いとは全く思っていません。冒頭にお伝え

したとおり、日本人には日本人なりに培ってきた「死者とのつながり方」があるように思います。「日本型グリーフケア」があるとすれば、そうした死生観を基礎として、自分たちで築き上げていくことができるのではないのでしょうか。仏教を伝えていくこと、届けていくことと共に、今、目の前にいる人が何を必要としているのか。そこに一生懸命向き合っていくお坊さんがいることは、遺族にとつてこの上なくありがたいこととです。枕経にはじまり、通夜や葬儀、中陰、月忌参り、年忌法要といった日本仏教の弔いの「型」というものは、世界の中で最も優れたグリーフケアの仕組みだとも捉えられています。

「少人数で簡素にお安く」といったあり方が葬儀のトレンドとなつていくと耳にします。火葬のみの「直葬」も随分と増え、鎌倉新書による調べでは、国内の六分の一の葬儀が直葬になっていくとのことです。近年、極めて簡素化されていく弔いの様式ですが、そうした仕組みを私たちが失っていくて良いのでしょうか。簡単なものにしていくことで、失っているものはないのでしょうか。次回、この問いをみなさんと一緒に考えるために、葬儀の現場における「仏教×グリーフケア」の取り組みをお届けしたいと思います。



次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑧」です。

親鸞教室「大集会」

(御遠忌記念法会)

日時 6月23日(日)

午後1時半(開会)

講演 海法龍氏 (東京教区長願寺)

講演 願いに生きる 真宗門徒の生活

日程 午後1時半 開会 挨拶・勤行

午後2時半 講演 (正信偈草四句目下念仏三淘和讃 三朝浄土の大師等次第三首)

午後4時 閉会

持ち物 念珠・勤行本

会場 高山別院 本堂

参加費 無料

主催 高山2組

御礼とご報告

この度の御遠忌法会で開催した北海道復興支援バザーでは、多くの方々よりご協力を頂きました。その売上金110,299円に当ボランティア委員会からの寄付を加え、合わせて150,000円を義援金としてお届けしたことをご報告いたします。まことにありがとうございました。 飛騨御坊ボランティア委員会

真宗大谷派

ハンセン病問題全国交流集会

2019年9月13日(金)~14日(土) 開催

富山から考えるハンセン病問題 ~病そのものとは別の苦しみ~

今年の「平和と人権の旅」は、富山市で行われる全国交流集会に参加いたします。皆様お誘い合わせの上、お申込みください。

- 【会場】 富山県総合福祉会館 サンシップとやま
【参加費用】 10,000円(宿泊費別)
【申込方法】 高山教務所までお電話ください

佐奈姫忌法要



佐奈姫(1633年~1667年)は、東本願寺第十三代宣如上人の娘で、照蓮寺宣心にわずか9歳で嫁ぎ、35歳の短い生涯を終えました。その墓前で法要を営み、聞法の座をもちます。

日時: 6月26日(水) 午後1時30分から
会場: 佐奈姫墓所・松本公民館(高山市松本町)
法話: 三本 昌之氏(蓮徳寺住職)

※別院から送迎があります。現地には駐車場がありませんので、参拝される方は午後1時までに別院事務所前に集合ください。

別院定例法座 午後1時から

6月28日 親鸞聖人ご命日法座
講題 「凡夫を生きる」
講師 松岡 真澄氏(西蓮寺)

7月3日 三日のご坊
講題 「三心とは」
講師 小谷 秀道氏(蓮勝寺)

おすすめの1冊

「私を照らすひかりの言葉」 酒井義一氏の連載が本になりました!

2014年から約4年間「家族で語ろう」コーナーで連載していただいた酒井さんの文章が本になりました。

お買い求めは高山教務所まで。
価格 800円(税込)
著 酒井義一氏

私を照らすひかりの言葉